

1 病虫害名 フタモンマダラメイガ *Euzophera batangensis* Caradja

2 対象作物名 ナシ

3 発生経過および状況

- (1) 平成 23 年 6 月 21 日、志太榛原地域のナシ園において、枝幹を食害する幼虫が発生したと果樹研究センターに連絡があった。幼虫を採取し恒温器内で成虫に羽化させ、名古屋植物防疫所に成虫を同定依頼したところ、フタモンマダラメイガと同定された。
- (2) 発生を確認したナシ園では、園内の全樹のうち数パーセントで寄生が認められ、周辺の園での発生も同程度であった。

4 国内での発生状況

フタモンマダラメイガは、主にカキ、クリ、リンゴの枝幹を加害する害虫である。ナシの枝幹への加害は、平成 11 年に三重県で確認され、それ以降、愛知県、神奈川県、新潟県、山口県でも確認されている。その他の作物では、平成 18 年に山梨県でブドウ、モモ、スモモ、平成 20 年に長野県でスモモの枝幹への加害が確認されている。

5 被害

被害は枝幹で多いが、果実でもみられる。幼虫が粗皮下に食入し、形成層を食害する（写真 1）ため、樹勢が衰弱する。被害部位は黒変し、粗皮ははがれやすくなり、内部に糸でつづられた虫糞が見える。被害は、枝の分岐部、剪定時の切り口や剪定癒合部、徒長枝の基部に多い。

6 特徴

(1) 形態

若齢～中齢幼虫の体色は乳白色、老齢幼虫になると頭部は茶褐色、体色は緑色を帯びた淡褐色で体長は 13mm 程度になる（写真 2）。白色楕円形の薄い繭を作って蛹化する。蛹の体色は黄褐色。

成虫は開長 15mm 前後。前翅は紫褐色で細長く、灰褐色の波状の 2 本の横帯が走る（写真 3）。

(2) 生態

成虫は 4 月～5 月頃から発生し、年に 3～4 回発生する。主に老齢幼虫で枝幹の粗皮下などで薄い繭を作って越冬する。

(3) 本種は別名クロフタモンマダラメイガ、カキノキマダラメイガともいわれている。

7 防除対策

ナシでは本種に登録のある薬剤はないため、次の耕種的防除につとめる。

収穫後～冬季に枝幹部をよく観察して、虫糞が認められたら粗皮を剥ぐか削って、幼虫、蛹を見つけて捕殺する。
被害の激しい樹は、早めに伐採し、土中に埋めるなど適切に処分する。

8 その他

不明な点は、病害虫防除所、農林技術研究所果樹研究センター、農林事務所、農協等に相談する。



写真1 ナシの幹の被害（粗皮を剥いだところ）虫糞がみえる（矢印）



写真2 老齢幼虫



写真3 成虫